

精華南中学校 地域貢献プロジェクト 提言内容

1組	精華町が抱える課題	精華町への提言
1班	若い人たちの議会への関心を高めるには	議会と関わる機会を設ける
	<p>具体的な取組としては、①議会だよりの文字の大きさを整えたりイラストを入れたりして見やすくする、②町民が議会傍聴に行く計画を事前に立てられるよう、議会の日程を華創の目立つ位置に記載する、③議会棟のフロアマップを掲載したパンフレットを配布したり駅やスーパーなどに設置したりする、④せいか365の活動に「議会傍聴に行く」というミッションを追加し、達成したら精華町のキャラクターグッズやせいか365の「せいか365健康ポイント」を与える、⑤小中学生の議会傍聴の場を積極的に設ける、⑥子ども議会を復活させ、中学生も参加できるようにする、などです。</p>	
	<p>(担当課からのコメント)</p> <p>提言に至るまで大変お疲れさまでした。今回の取組を通して議会を知ってもらい、関心を持っていただけたらうれしく思います。</p>	
2班	小中学生の防災意識を高めるには	体験型授業で炊き出し訓練を行う
	<p>具体的な取組としては、小6生と中3生を対象に防災に関する授業を行う。その中で①炊き出しを行ったり、②保存食の賞味期限を確かめ、期限が迫った保存食を実際に食べてみたりすることです。防災について受け身で学ぶのではなく、実際に炊き出しをすることで身近なものだと感じられるメリットがあります。一度炊き出しを経験することで、実際に災害が起きたときにも子供たちが手伝うことができます。また保存食を手にとってみたり食べたりすることで記憶に残りやすく、食品ロスに対する意識の向上にもつながると考えました。</p>	
	<p>(担当課からのコメント)</p> <p>今回の学習をきっかけに一人一人が防災への意識を高めて、近い将来発生する可能性がある南海トラフ地震へ事前に備え対策を心掛けましょう。提言の実現に向け検討してまいります。</p>	
3班	町の予算決算の内容がわかりにくい	項目ごとに分け、グラフや内容をまとめる
	<p>具体的な取組としては、①一部の棒グラフを円グラフに変える、②説明の量を減らす、③配置や順番、見出しの大きさなどを工夫することです。グラフの説明文が細かくて長いので、短く最小限の説明にすることで文字の大きさと見た目のシンプルさを確保することができ、重要な内容が目に入りやすくなります。また歳入と歳出の配置を入れ替えることで、文章の流れが自然となるためわかりやすいと考えました。</p>	
	<p>(担当課からのコメント)</p> <p>提言いただいた内容も参考にして、これからも工夫を凝らしながら、住民の皆さまに精華町の財政状況をできるだけ分かりやすくお伝えしていきたいと考えております。</p>	

4 班	精華町の住民みんなが楽しめる施設 の設置運営をするには	ホールを2つに分け、年齢に応じて の場所をつくる
	具体的な取組としては、かしのき苑のロビーを低い壁で2分割し、片方はキッズスペースに、もう片方は保護者などの休憩スペースにすることです。キッズスペースはさらに2分割し、すべり台やプレイハウスなどを置いて体を使って遊べる空間と、オセロやパズル、ままごとセットなどの静かに遊べる空間にします。またもう片方には机やソファ、本などを置き、保護者が子どもが遊ぶのを見守りながら休憩したり読書したりする空間にします。そうすることで、子育て世代やその家族が安心して楽しめる場とすることができると考えました。	
	（担当課からのコメント） 皆さんからいただいた新しい視点での提言を参考に、よりよい町になるよう取り組んでいきたいと考えております。	
5 班	精華町の文化財の認知度を高めるに は	スタンプラリーの実施
	具体的な取組としては、神社などの文化財の敷地にその文化財に関するクイズを掲示し、スタンプラリーのように楽しく文化財について知ってもらうことです。参加賞はクイズへの参加数や正解数に応じて、精華町内で使えるクーポンやポイント、図書カードまたは精華町のご当地ネタや豆知識などを取り入れたアクリルスタンドなど面白みのあるものにし、SNSなどで拡散してもらうことで精華町内外の幅広い年齢層の人々に、精華町の文化財を知ってもらうことができると考えました。	
	（担当課からのコメント） 文化財というと、「難しそう」「わからないのに行っていいのかな」という印象を持つ方も多いように思います。そんな方にも、「ちょっと行ってみようかな?」と思えるような、素敵な企画だと感じました。今後、町内の文化財にもっと親しんでもらえるような取組を考える上で、今回の提言を参考にさせていただきます。	

2組	精華町が抱える課題	精華町への提言
1班	デジタル化の推進と高齢者への対応	スマホ教室・質問会の開催日や内容等の変更
	<p>具体的な取組として、スマホ教室や質問会の開催を平日だけでなく休日にも行います。休日にも開催することによって、平日はお孫さんの世話や病院など決まった曜日に決まった予定のある方も、休日の開催には参加できる可能性があるからです。もう一つの具体的な取組例は、事前にアンケートを取って講習内容を決定することです。高齢者がどのような課題を抱えているか、何を知りたいのかという部分をアンケートで把握することができれば、スマホ教室や質問会を効率的に行うことができると考えました。</p> <p>(担当課からのコメント)</p> <p>提言いただいた内容について、せいか地域ITサポーターの会員にも共有し、今後のスマホ教室や相談会の開催方法等について、検討を進めたいと考えております。</p>	
2班	学校給食の残食(食材の廃棄)を減らすには	小中学生への献立に関するアンケートをとる
	<p>具体的な取組としては、今よりも頻繁に各小中学校に給食メニューや時間などのアンケートを取ることで、児童生徒の食材や献立の好き嫌いを把握することができます。SNSを利用して、アンケートや結果発表をすることで、季節の豆知識や人気献立レシピなどが保護者や児童生徒の目に留まりやすくなると考えました。児童生徒が好む食材やメニューを提供することで食べることへの興味関心が高まり、残食を減らそうと考える児童生徒が増えることが期待できます。結果的に、「食材ロス削減」につながると考えました。</p> <p>(担当課からのコメント)</p> <p>学校給食は、児童生徒の健康のために適切な栄養を摂取することはもちろんですが、できるだけ多くの食経験を積み重ねることや感謝の心を育むこともねらいとしていますので、様々な視点から食べ残しを減らす工夫をしていただけたらと考えております。</p> <p>また、給食時間が学校生活の楽しみのひとつとなるようアンケートの実施、情報発信についても検討していきたいと考えております。</p>	
3班	救急車の適正外利用を減らすには	費用を支払う制度の導入
	<p>具体的な取組としては、救急車を呼び病院に搬送されたが、病院(医師)が緊急性を認めなかった場合、救急車の利用者が一定の金額(罰金)を支払うという制度を作るということです。しかし罰金を恐れて救急車を呼ぶ必要のある人が呼ばない選択をしないよう、「救急安心センター#7119」も併せてSNSやポスターで周知する必要があります。救急安心センターについて知ること、救急車の適正外利用が減らすことができ、救急安心センターの利用が増えるため、職員の雇用にもつながると考えました。</p> <p>(担当課からのコメント)</p> <p>今回は救急車の適正外利用に対する費用を支払う制度の導入について提言いただきありがとうございます。実際に、罰金ではなく選定療養費として徴収する都道府県が増えてきているのが現状です。今回提言していただいた#7119の促進や各種SNSを通じた発信を消防本部としても取り組んでいきたいと考えております。</p>	

4 班	消防職の新規採用者の応募を増やすには	SNS を利用して消防職や消防署についての情報を発信し、認知度を上げる
<p>具体的な取組としては、消防署が SNS のアカウントを作り公開できる範囲の投稿をします。例えば訓練の様子、消防車の内部、消防署内の写真などとともに、地域との活動や取組、パトロールの様子などを投稿することで、たくさんの人に手軽に様々な情報を届けることができます。一つ一つの動画の再生時間を短く分かりやすくすることで、視聴者に必要な情報をしっかりと印象付けることができます。パソコンでも編集・投稿できるので、新たにタブレットなどを購入する必要もないというメリットもあると考えました。</p>		
<p>(担当課からのコメント) 提言いただいた内容について、前向きに検討しております。SNS を発信できるようにになれば、フォローを是非お願いいたします。</p>		
5 班	京阪奈新線新祝園ルート認知度を高めるには	宣伝会及びメディアの効果的な活用
<p>具体的な取組としては、学校でのオンライン授業や役場・駅などでの宣伝会、またラジオや CM、SNS などメディア媒体を通して宣伝します。手軽にたくさんの人に京阪奈新線新祝園ルートについて知ってもらうことができると考えました。学校では京阪奈新線ができることによるメリットを最大限伝え、そこから広がる可能性を考えてもらうことで、新鮮なアイデアを知ることができます。また SNS ではトレンドの話題をうまく取り入れたりクイズ形式にしたりして、幅広い年代の人たちに知ってもらったり拡散してもらったりすることができるというメリットがあると考えました。</p>		
<p>(担当課からのコメント) 学校でオンライン授業を行うというアイデアは若い世代の認知度を上げるために効果的なアイデアだと思いました。これからも京阪奈新線新祝園ルート延伸に向けた取組を応援していただけるとうれしく思います。</p>		